

和光



発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地

国立療養所 奄美和光園

電話(0997)52-6311 FAX(0997)53-6230

令和3年2月1日
(2021)

第120号

- 表紙.....1
- 年頭に当たって.....2～3
- 令和2年度合同慰靈祭.....4
- サンタが和光園にやってきた.....5～6
- ふるさとお楽しみ便.....7
- 永年勤続表彰.....8
- 第1回災害訓練.....9
- 第1回日本フットケア・足病医学会年次学術集会発表.....10

- ハンセン病医学オンライン講座を受講して.....11
- 栄養サポートチーム(NST)専門療法士認定試験を受験して.....12
- 病棟豊年祭～清と相撲ダンサーズ～.....13
- 治療棟レクリエーション“秋”踊り.....14
- 和光園の魅力紹介コーナー.....15
- NST News Letter16
- 奄美和光園の歴史.....17
- 手作りパーテーション設置.....18
- 診療統計・人事異動・和光園日誌・編集後記.....18

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



奄美空港の初日の出

基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療 さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます



年頭に当たって



国立療養所奄美和光園
園長 加納 達雄

明けましておめでとうございます。令和三年が始まりました、新たな気持ちで新年を迎えたことだと思います。元旦の奄美大島は、雨が降ったり止んだりの不安定な天気でしたが、園内は凜とした清々しい空気に満ちあふれ、時折まぶしいほどの陽光が差し込んでいました。今年は普通の日常が戻り、思い出がたくさん残る年になってほしいものです。

一昨年の五月に平成から令和へと改元され、皇位継承に伴う様々な儀式・祝典が続きましたが、昨年十一月に行われた立皇嗣の礼で一連の儀式が終了しました。儀式の場の有り様やそこでの立ち居振る舞い、艶やかな装束には初めて目にするものも多く、奥底に伝わる日本の伝統美に歴史の重みを感じていましたが、突如それを遮るかのようにコロナウイルスという目に見えない化け物が日本を襲いました。従来のものとは違うということで新型と呼ばれています。首都圏に上陸した化け物は人に危害を及ぼし、しかも人から人へ飛び移っていました。高齢者や持病を持っている人は重症化する危険度が高く死に至ることもあります。このため、飛び移らせまいとして口を覆うマスクは衛生必需品となり瞬く間に品薄となっていました。これをニュースで知

った全国の人々も、自分の身近な店にマスクがないことに気づき、慌てて布マスクを作ったり、政府からも全国民へマスクの配給がありました。和光園でも奄美大島にある自治体の首長さんからマスクの寄贈がありました。場当たり的でしたが、何とか凌いでいるうちに供給体制が追いつき、全ての国民が化け物を飛び移らせまいと屋内外を問わずマスクで口を覆う日常生活が定着しました。

人が集まることは危ないとされ、ましてや移動することは化け物を振りまくだけだとされたことから会食や旅行ができなくなりました。経済的危機を感じた政府は金銭的後押しをすることで外食と旅行を促しましたが、その後も化け物の飛び移りが一向に止まないことから、全ての人が自衛措置を行いながら生活するという暮らし方に変わりました。古来からの習慣である神様・仏様への初詣も人混みができないように年末から始まり、時間や空間の隙を見つけてしなければならなくなりました。化け物の拡がりは生命だけではなく社会生活に対しても本物の脅威であり、社会全体で真剣に対処しなければならない状況となっています。

そんな中での新年の始まりですので、何を差し置いても優先すべきは徹底した感染対策です。今年は国を挙げて何としても化け物退治をしてほしいものです。予防薬や特効薬の開発が急がれていますがまだ実用化には至っていません。ワクチン接種がまもなく始まりますが、免疫効果ができるまでは逃げ回って自己防衛に徹するしかありません。

和光園には未だ化け物の侵入は確認されておらず、見かけ上静かな生活が続いています。しかし、今までのような日常生活はもう送れなくなってしまいました。奄美大島でも昨年は感染者が出たため、それ以来緊張感を緩めることができません。職員及び業務関係者以外の方に対して療養所への立ち入りを禁止する状態が続いています。このため、慰靈祭を除く恒例行事は全て中止となり、レクリエーション・ショッピング等の外出も可能な限り自粛することになっています。

例年通りであれば、新年の展望を書きたいところですが、今の状況下で書くことは、ひょっとすると絵空事になるかもしれません。ただ一つ言えることは、このような時こそ基本に戻り、日頃の仕事を見つめ直したいと思います。化け物が退散し、確実なことが言えるようになつたら改めて書くことにします。今は、安

心して誰とでも会うことができる日が来ることを信じ、それまでは辛抱して日々を過ごすことにしたいと考えています。入所者の皆さんには我慢強く耐えていただき感謝しています。また、職員も緊張した生活を強いられ、療養所への影響をゼロに押さえ込んでいます。もう少しですでの耐え忍んで下さい。安全が確認され次第、和光園の日常生活を元に戻したいと思います。化け物が退治されるかどうかはまだ予断を許しませんが、和光園の入所者の皆さんのが安心して暮らせるよう、全ての職員が力を合わせて仕事に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりますが、コロナ騒動が無事終息し、療養所に関する全ての皆様、職員、和光をお読みの皆様が平和で安寧な、実りの多い一年となることを祈ります。



令和2年度 合同慰靈祭

令和2年度合同慰靈祭が11月12日に講堂にて執り行われ、入所者、職員合わせて53名が参列しました。

今年はすべての行事において、第一に感染予防対策が求められるため、外部の方の招待は見送り、園内関係者だけの参加とし、マスク着用、手指消毒の徹底、お互いの距離をとるということで開催することになりました。

式典が始まると、最初に、参列者が昨年の合同慰靈祭以降に亡くなられた2名を含む396柱の御靈に対して黙祷をささげました。

次に、慰靈の言葉として加納園長より「全ての御靈のご冥福を心よりお祈り申し上げる。今年は新型コロナウイルスの流行で全ての行事が中止となり、合同慰靈祭だけが唯一行われることとなった。入所者の高齢化は進み、自治会も休会に至った。和光園は平穏な暮らしの場となっており、今後とも入所者一人ひとりの人生を支えるべく最大限の努力をしていく。8月に和光園の歴史を残す事業として歴史資料館が開設されたが、安心して多くの参観者を迎える日を祈るとともに、入所者の暮らしを護る

ため職員一同なお一層研鑽を積むことをお誓い申し上げる。」と挨拶及び今後の抱負が語られました。

挨拶が終わると、今年5月に亡くなられた入所者の親族の方から順番に中央の祭壇に向かって献花が行われました。入所者の方々も神妙な面持ちで行っていました。その後、納骨堂へ移動し、御前に手を合わせて各自焼香を行い、無事合同慰靈祭は終了しました。

現在、入所者は20名※となりましたが、高齢化が進み、平均年齢は86.6歳となり、各種行事の開催も難しくなってきています。ただ、先人の靈を慰め、鎮めるための合同慰靈祭だけは、入所者の強い思いも感じたので、続けていかなければならぬと改めて感じた日となりました。

※発行日現在19名

福祉室長 上脇田 勝教



サンタが和光園にやってきた



和光園では冬の訪れに合わせ園内に夢のようなイルミネーションが登場します。夜の園に輝く色とりどりの光はまるで遊園地やディズニーの世界のように目を楽しませてくれます。クリスマスシーズンにはそれぞれの棟で入所者とのクリスマスイベントが繰り広げられます。

一般舎にはお楽しみサンタ隊がハンドベルの演奏とともに、園長サンタからのプレゼントが一軒ごとに届けられました。サンタの訪問に入所者は顔をほころばせていました。

不自由者棟ではかわいらしい音楽隊やマジシャン、楽しい踊り手が登場。ハンドベルのやさしい音色やアッと驚くマジックショーに拍手喝采。六調の踊りには車椅子での入所者も参加し、調子に合わ

せて手踊りし新年の祈願を行いました。

病棟の各居室には、スズとチヂンの音と共に『ジングルベル』を歌いながらソリに乗ったサンタクロースと三角帽子の相撲ダンサーズがやってきました。最初は驚く入所者も、踊る相撲ダンサーズに笑顔がこぼれ、園長サンタからプレゼントとクリスマスカードを受け取ると、『メリークリスマス！』と、もっと笑顔になっていました。

例年とは違っていましたが、皆が笑顔になれたクリスマス会でした。来年も一緒に笑顔で迎えられることを願います。メリークリスマス！

看護サービス委員 病棟 看護師
榮珠美



♪サンタが
やってきた



ハンドベルの演奏



マジックショー



収穫踊り



サンタからのプレゼント



ふるさとお楽しみ便

令和2年12月18日、毎年恒例のふるさとお楽しみ便贈呈式が自治会事務所にて行われました。

ふるさとお楽しみ便とは、鹿児島県より全入所者に対して、年1回県産品の詰め合わせが贈られるもので、1995年に始まり今年で26回目となります。

今年は、コロナ禍ということで、来園予定であった4名の鹿児島県・保健所の方々は、まさに新型コロナウイルスに関する業務に携わっており、当日も業務多忙のため、2名しか来園できませんでした。

式では初めに、全入所者に対して、鹿児島県くらし保健福祉部の宮ノ下技術主幹より、今年の7月に新たに就任された塩田県知事の温かいお言葉を園内放送で代読していただきました。続いて、園に届いたふるさとお楽しみ便を入所者代表が名瀬保健所の久保健健康企画課長より受け取りました。

その後、入所者代表がお楽しみ便を開封し、今年の中身について県・保健所の方と談笑しました。中身については、今年は業務が多忙のため例年のように事前に実物確認ができておらず、県の方も初めて実物を

見るとのことでの、写真に収めておりました。

お楽しみ便の中身については、前年と同じ内容ではなく、皆様の意見を反映した、人気の高い品物の詰め合わせとなっており、入所者の方々もさぞ喜ばれることだろうと思いました。

最後になりますが、このような贈り物を毎年届けてくださる鹿児島県の皆様に感謝申し上げます。

福祉室長 上脇田 勝教





30年永年勤続表彰を受けて

この度、30年永年勤続表彰をいただきました。これもひとえに、諸先輩方をはじめ、一緒に勤務させていただいた皆様方のおかげと存じます。誠に有難く感謝申し上げます。

この度は、永年勤続30年の表彰を頂き誠にありがとうございます。

私は平成7年に奄美和光園に転勤して参りました。慣れない環境で失敗ばかりの日々でしたが、多くの上司、先輩、仲間、職員の皆さんに助けていただき、ここまで続ける事ができました。そして、入所者の皆

思えば早いもので30年、和光園で勤務させていただくことができました。

今日まで、入所者と職員の方々にいろいろな出会いと別れがあり、励まされてやつてこれたような気が致します。

20年永年勤続表彰を受けて

この度は、永年勤続表彰を頂き、誠にありがとうございます。2000年7月にこの地で採用となり、18年ぶりに再び勤務する機会を得て、当園で勤続20年を迎えることができましたことに御縁を感じ、一層嬉しく思います。

20年前、鹿児島一奄美大島航路の片道航空券を手に、不安と期待を胸に、赴任したことが昨日のことのようです。当時、休日や退院後は入所者との園内散策、作物や猪の見学、採れたて野菜を私の自転車にそ

この30年を振り返ってみますと、私の病院勤務のスタートは指宿でした。指宿で9年近く勤務させていただいた後は異動を繰り返し、当園で8回目の異動となります。

今回の表彰で、ふと前回の20年表彰の際に在籍していた施設はどこの施設だったかなと考えてみましたら、この時の勤務地は南九州でした。節目節目で鹿児島で勤務している事に気づかされると共に、鹿児島には本当に縁があるものだと感じております。

この先、あと何施設お世話になるかは分かりませんが、今回の表彰を励みに頑張っていきたいと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。

事務長補佐 立川 秀一

様には、いつも励まされ、親切にして頂き本当に感謝しております。

これからも今までの経験を活かして美味しい料理を提供できるように精進してまいります。

副調理師長 吉田 正巳

今回の表彰を糧に、和光園の為にこれからも頑張りたいと思います。ご指導をよろしくお願ひ致します。

再任用調理師 荒垣 満雄

っと掛けてくださる方、「内地から来て、心細かろう。」と、旧給食事務室に毎日のように顔を出してくださる入所者もいらっしゃいました。また、宮城12代園長をはじめ、職員の皆様には大変お世話になりました。

勤務年数も人生も、ちょうど折り返し地点です。業務内容は入職当時とは様変わりしていますが、あらゆる変化に動じず、全力で駆け抜けることができるよう、健康に留意し励んで参ります。これからもよろしくお願ひ申し上げます。

栄養係長 青堀 尚子

第1回 災害訓練

近年、地震や台風・水害など多くの災害が発生しています。今回、和光園職員全体で初めて水害を想定した災害訓練が11月26日に行われました。訓練前にアクションカードを作成して何度も読み合わせし、職員一同訓練でスムーズに行動できるよう準備しました。不自由者棟ではスタッフ7名が訓練に参加し、緊張しながらもお互いにポケットのカード内容を確認し、声を掛け合うことができました。搬送場面では、模擬人形でしたが重みも感じ、4名の職員が3階までの階段

をシートの隅を握りしめて慎重に運ぶ顔つきは真剣そのものでした。避難後はトリアージ班の出番。緊迫感ある医師-看護師の連携処置場面が繰り広げられていました。全員の避難確認後は、本部へ報告に走る職場長の姿があり、額には汗が見られました。

今回の災害訓練を通し、入所者を3階まで避難誘導する事の責任や瞬時にどう動くべきか、実際をイメージして考えるきっかけになりました。この体験をもとに、日頃から災害への備えをより一層大事にしていきたいと考えています。

不自由者棟 看護師 山口 千春

災害時アクションカード スタッフ用					
◎災害発生時の行動 ()寮					
1. 自分自身の安全確認					
2. アクションカードを確認し、各担当場所へ急行					
3. 担当入所者、面会者の安全確保、状態確認、被災状況を確認 報告： 担当患者（ ）人 家族・面会者（ ）人 *不在入所者はリーダーに報告し、指示を受け行動する					
4. 設備等被害状況の確認 *下の表にチェック					
5. 自分、入所者、面会者の安全確保し待機					
6. リーダーに報告、指示のもと避難準備・開始					
設 状 備 況 被 害	壁・天井				
	窓ガラス				
	電気・電話				
	酸素・吸引				
*異常のある部屋の番号を記入する					
医療安全推進担当者会議 R.2.11 作成					



第1回 日本フットケア・足病医学会年次学術集会発表

2019年に日本フットケア・足病医学会が合併設立され、第1回年次学術集会が2020年12月4日・5日に開催されました。記念すべき第1回年次学術集会のテーマは「Reunion!～フットケアと足病医学～」であり、4月に開業したばかりのパシフィコ横浜ノースで大々的に催される予定だったのですが…、新型コロナウイルス感染症の影響で現地参加とWEB配信を併用したハイブリッド型開催となりました。

さて、日本では末梢神経障害による足の潰瘍の原因疾患は糖尿病が圧倒的に多く、学会の教育講演のテーマも糖尿病に関連するものが多くあります。しかし世界的にはインド、ブラジル、インドネシアなど、年間20万人を超えるハンセン病新規患者の報告があります。このような国の出身者が外国人労働者として日本に在住し、末梢神経障害による潰瘍を主訴に受診することがあるかもしれません。「糖尿病でもないの

に、糖尿病みたいな末梢神経障害がある？」とならず早期に診断できるよう、またハンセン病回復者が医療機関を受診した際に医療者がハンセン病の病態やハンセン病問題を少しでも知っており、診察に配慮することができるよう、啓発の意味を込めて「ハンセン病後遺症による足病変の特徴」と題し、一般演題発表を行いました。

ハイブリッド型開催のため、一般演題発表は音声無しのデジタルポスター形式となり、質疑応答システムがないため、どの程度の方に興味をもっていただき、そして伝わったのか、残念ながらわかりませんが、私が和光園にいる意味のひとつと思い、今後も機会があれば学会発表や論文投稿に臨みたいと思います。

副園長 馬場 まゆみ

The 1st Annual Meeting of Japanese Society for Foot Care and Podiatric Medicine

第1回 日本フットケア・足病医学会年次学術集会
Reunion!～フットケアと足病医学～

会期 2020年12月4日金・5日土

会場 パシフィコ横浜 ノース

会長 日高 寿美 [湘南鎌倉総合病院
脳腫瘍総合医療センター]

副会長 溝上 祐子
[公益社団法人
日本整健協会 整健師養成学校]

愛甲 美穂
[湘南鎌倉総合病院
血液浄化センター/
フットケア指導士]

オンライン参加受付した方へ
配信サイト

会場で受付した方へ
配信サイト

オンデマンド配信期間
2020年12月21日（月）～2021年1月12日（火）

ハンセン病医学オンライン講座を受講して

12月12日、ハンセン病医学オンライン講座が開催され、当園では馬場副園長の御厚意により、参加する機会をいただきました。

講座は例年夏季に行われており、以前から参加してみたいと思いつつ、移動に伴う家庭の事情もありなかなか機会を得ることができませんでしたので、今回は好機となりました。

対象が医療に関することを学ぶ学生・医療関係者ということで、ハンセン病医学の基礎から臨床、最新の知識や動向、国際協力の現状、将来の展望まで多岐に亘った内容でした。ハンセン療養所に勤務しているながら、初めて耳にする情報も多く、興味深く視聴するとともに自らの知識不足を反省しました。

特に印象深かったハンセン病回復者の山之内きみ江さんの講演では、幼少期から入所前後、社会復帰の経験、養子を迎える子育てをされたこと、再入園され現在に至ることなど、歩んでこられた人生がぎゅっと凝縮された内容が心に響きました。締めくくりとして、「弱い立場をわかってもらいたい。相手の立場に立って考え、愛と余裕をもって関わって

欲しい。」と訴えられました。生の声は、自身の業務を考える上で重要なヒントになると改めて感じました。

受講後のアンケートには、来年もオンライン講座の併用を望むと回答しました。次の機会があれば、是非とも参加をお勧めします。

栄養係長 青堀 尚子

本年度はオンラインにて開催

ハンセン病医学 オンライン講座

ハンセン病医学の基礎から臨床まで

(第42回ハンセン病医学夏期大学講座)

2020年12月12日(土)

ハンセン病に関する最新の知識や
国際協力の現状、将来展望などをお伝えします。

対象：医学、歯学、薬学、看護学、ならびに医療福祉、医療技術を学ぶ学生・医療関係者

プログラム

9:00	開会あいさつ：南里隆宏 ハンセン病医学オンライン講座実行委員長（笹川保健財団常務理事）
9:05 - 9:45	ハンセン病の原因菌とヒトの応答：阿戸学（国立感染症研究所・ハンセン病研究センター 感染制御部長）
9:50 - 10:50	ハンセン病の臨床：山崎正視（国立療養所多磨全生園 皮膚科医長）
10:55 - 11:55	ハンセン病回復者から：山之内きみ江さん
13:00 - 13:40	ハンセン病の歴史：森 修一（国立感染症研究所・ハンセン病研究センター 感染制御部第7室主任研究官）
13:50 - 14:30	ハンセン病の看護とケア：田澤理恵（国立療養所多磨全生園 看護部長）
14:40 - 15:20	ハンセン病と国際協力：四津里英（WHO-Global Leprosy Program TAG）
15:20 - 15:50	質疑応答・総合討論
15:50	閉会あいさつ：石井則久（国立療養所多磨全生園 園長）
16:00	終了

申し込み方法

Zoomウェビナー登録画面よりお申し込みください。（下記URLまたは右記QRコード）
https://zoom.us/webinar/register/WN_iH061EQpQ_aimZBVDhqAiw

主催：公益財団法人笹川保健財団、ハンセン病医学オンライン講座実行委員会
お問い合わせ：国立ハンセン病資料館内 ハンセン病医学オンライン講座事務局
042-396-2909 (火～日 9:00-17:00) info@hansen-dis.jp



日本臨床栄養代謝学会



栄養サポートチーム(NST)専門療法士認定試験を受験して

10月25日、国立京都国際会館に於いて、2020年度の栄養サポートチーム専門療法士認定試験が行われました。

上記の資格は、日本臨床栄養代謝学会が定める所定の条件を満たした者を、主として静脈栄養・経腸栄養を用いた臨床栄養学に関する優れた知識と技能を有しているとみなし認定するとあります。条件は表1をご参照ください。

私にとっては、受験資格を得るための(4)40時間の実地修練が難関でした。施設と日程を考慮し、NHO都城医療センターを選択しました。研修参加に当たり、職場を7日間も不在とする為、給食スタッフの協力は不可欠でした。

2020年2月に京都で行われるはずの受験必須セミナーは、新型コロナウイルスの感染拡大によりオンライン受講となりました。受験申請はしたもの、試験会場が京都であり、移動による感染の危険を考えると、受験するか否かで直前まで悩みました。

奄美ー伊丹航路、不特定多数の接触を回避する交通手段を選びました。密を避ける

ため、早々に試験会場入りし、張り詰めた空気の中での昼食はなかなか喉を通りませんでした。試験は2時間で80問と多数で時間との闘い、伊丹空港への復路では、高槻市付近でトラック乗用車5台の玉突き事故による渋滞のため、航空機に乗り遅れる不安と闘い、なんとか奄美に戻ることができました。ハプニング続きの受験となりましたが、「一生勉強一生青春」の言葉に支えられ、目標に向かってコツコツと問題を解き、達成できたことから得られる充実感は何ものにも代えがたいです。

取得した資格は、資格に恥じることなく、入所者の皆さんに還元できるよう、日常業務に加え、馬場委員長率いるNST委員会で活かして参ります。

皆さんも資格取得を目標に、人間(ひと)が生きていくための根本を成す「食と栄養」について一緒に学び、考えませんか！！

栄養係長 青堀 尚子

表1 所定の条件

(1)日本の国家資格を有すること。

認定対象国家資格：管理栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士および診療放射線技師(9職種)

(2)当該国家資格により5年以上、医療・福祉施設に勤務し、当該施設において栄養サポートに関する業務に従事した経験を有すること。

(3)本学会の学術会に1回以上、NST専門療法士受験必須セミナーに1回以上参加することを必須とし、これらの参加単位が30単位以上あること。

(4)認定教育施設(全国に292施設)において合計40時間の実地修練を終了していること。

(5)これらの条件を満たし、認定のための試験に合格していること。

一部抜粋：JSPENホームページより

日本臨床栄養代謝学会

～世界最大級の栄養関連学会～

JSPEN会員数：22945名

(2020年11月30日現在)



参考：2020年度 受験スケジュール

認定試験に関する公示 5/1

受験の申請のための

WEB事前登録 7/1～7/31

受験申請書の作成、送付

WEB事前登録受付後

書類審査結果通知 9月中

試験期日 10/25(土)

13:00～15:00

合格者発表 12/8

認定手続き 12月末～



病棟豊年祭～清と相撲ダンサーズ～

病棟では、11月19日に病棟豊年祭を開催しました。案内状やポスター作成、そして踊りの練習など病棟職員も気合い充分でこの日を楽しみにしていました。

迎えた本番、入所者の琴演奏からスタート。始まる前からの練習の音が、先に会場の雰囲気を温めしていました。前半は、琴演奏に合わせた職員や入所者の手拍子、琴の綺麗な音色が響き渡っていました。

後半は、最大の目玉である【病棟の山下清と相撲ダンサーズ】の登場です☆

ダンサーズが“焼酎”や“おにぎり”的模型作品を持って入場すると、会場中が“ドッ”と笑いに包まれました。山下清役

には、病棟の島袋師長を大抜擢！清も登場した所で、ハイサイおじさんの音楽に合わせ清とダンサーズの踊りがスタート！会場全体が一体となり、入所者も職員も最高の盛り上がりでした。

今回、コロナ禍の影響で縮小した祭りの開催となりましたが、参加してくれた方全員の笑顔を見ることができ、本当に嬉しかったです。ご協力いただいた入所者、職員のみなさんありがとうございました。

病棟 介護員 岩元 由衣



治療棟レクリエーション“秋”踊り

治療棟スタッフによる「お楽しみ隊」は11月17日午後より、一般舎各入所者宅の庭先や隣接する道路を回り、“秋”踊りを披露しました。

一行は幟旗を先頭に大きな黒牛を従え、江戸時代の飛脚を彷彿させる出で立ちで雰囲気を盛り上げました。宮古島の“漲水ぬクイチャー”（雨乞のための島唄）や徳之島のワイド節のリズムに乗って、広がる踊りの大きな輪は皆の心を一つに結び付け、勇壮に響くチヂンは隊員らを鼓舞しているようでした。個性豊かな踊りとユーモラスな牛の振る舞いに、縁側で待機していた入所者は終始相好を崩して（顔をほころばせて）いました。夏に赴任された先生の茶目

つ氣ある踊りには一際大きな声援が送られていました。

隊員を代表して、「コロナ禍で生活様式が変わりつつある中でいろいろと大変でしょうが、健康には十分留意して長生きして下さい。」と、労いの言葉をユーモア交えた奄美の方言で伝えました。それを聞いた入所者の方々は、何度も頷きながら感無量の様子でした。締めの六調では、隊員らの“ありがとう”的掛け声と共に軽快に叩くチヂンの音が、静かな山合に余韻を残して賑やかなひと時は幕を閉じました。

治療棟 介護長 作下 志信



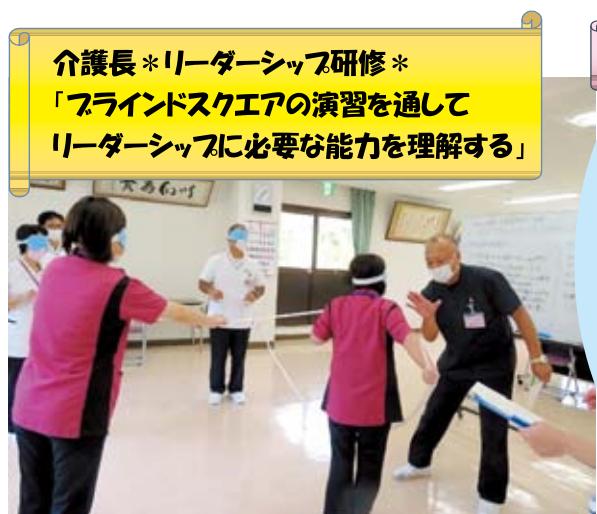
和光園の魅力紹介コーナー

昨年は、コロナ禍の中でも看護課職員によるイベントや楽しい研修の様子をもっとみんなに知ってもらいたいというあつ~い想いがかない、総師長室前に特大のお手製掲示板を設置してもらいました。ご協力いただき有難うございます。総師長室では“全集中”で構想を練り、汗と知恵をしぶり・・季節ごとに掲示物の衣替えをしています。掲示板がご縁で他部門の職員や来園者の方との和やかな時間を持つことができ感謝しています。

今回ご紹介するのは、『和光園は花とフルーツの魅力いっぱい』をテーマに園内に咲く素敵な花木やおいしそうな果実の紹介作品です。絵心ある筆名人の栄看護師が腕

を振るい、見事な大作が完成しました。ぜひ、多くの方に見ていただきたいです。昨年の秋は、「和光園名所巡り」のパンフレットにも載せた花言葉や史跡を辿る園内散策を企画しました。1月～2月は寒さに負けず、キンカン、ポンカン、たんかん、あかみかん、はっさくなどいろんな種類のミカンの収穫を楽しむ入所者の姿も見かけます。これからも季節を通して和光園の魅力を入所者と職員全員で大切に受け継ぎ、看護課からみんなが笑顔で元気になれるようパワーを送り続けていけたらと考えています。

看護課 総看護師長 鮫島 明子



当園の経口・経管栄養剤について

高齢になると、ものをうまく食べられなくなったり、消化機能が落ちたりすることで、栄養や水分を十分に摂れなくなることがあります。エネルギーとタンパク質が欠乏し、健康な体を維持するために必要な栄養素が足りない状態を「低栄養」と言います。低栄養になると認知機能の低下、気力が無くなる、免疫力が低下し病気にかかりやすくなる、筋肉や筋力の低下、骨量の減

少、骨折の危険性が増加することなどがあり注意が必要です。

栄養や水分を十分に摂れなくなった時に不足した栄養を補う手段の1つに経管・経腸栄養剤があります。

当園の経口・経管栄養剤（医薬品）はエンシュアH®とエレンタール®が採用されています。



この2剤は、経口又は胃ろう等の経管より不足した栄養を取るためのお薬です。副作用としてアレルギー症状、下痢、おなかが張る、吐き気、腹痛などがみられることがあります。

それぞれの特長は、エレンタール®は成分栄養剤とよばれアミノ酸、微量元素、ビタミンなどほとんど消化の必要が無い成分で構成されており、消化機能が悪い患者さんにも使える薬剤です。しかし独特の風味があり不味いので、フレーバーで味付けしたりゼリー状にしたりするなどしないと飲みにくい栄養剤です。尚、味付けのための専用コーヒーフレーバーにはカフェインが含まれています。

エンシュアH®は、半消化態栄養剤とよばれるタンパク質、脂肪、糖質、微量元素、

ビタミンなどを含む栄養剤です。エレンタール®に比べると飲みやすいですが、牛乳の成分を含んでおり牛乳タンパクのアレルギーを持っている患者さんには使えません。尚、コーヒー味は味を付けているだけでコーヒー（カフェイン）は含まれていません。

これら2剤は医薬品ですが、栄養科から出される食品栄養剤にも同じような用途で使われる物があります。こちらは、ゼリー状の物や食物繊維などを強化した物、味にこだわった物、誤嚥を少なくするため工夫した物、などいろいろな種類があります。

薬剤科 薬剤師 田原 直行

奄美和光園の歴史

(4)昭和22(1947)年2月、米軍による強制収容法発令

昭和20(1945)年8月15日終戦を迎え、翌昭和21(1946)年2月2日、いわゆる「二・二宣言」により、北緯三〇度以南の奄美、沖縄を含む南西諸島は日本本土から行政分離され米軍の軍政下におかれることとなった¹。昭和21(1946)年12月14日、西日本新聞通信員の重原源隆から軍政官F·M·ラブリーへの陳情により、同年12月20日「救らいは住民全体の責任」との軍政官メッセージが発せられた。その後、知事は軍政官から以下の三つの指示を受けている²。

軍政府フレデリックL. ヘイデン准将



那覇市歴史博物館提供

- 一つ、らい患者の数およびその住所を明確に調査せよ。
- 二つ、らい患者を故意に隠匿した者は厳罰に処する立法を一・二週間で立案せよ。
- 三つ、理由なくして収容所にいない者は、それに関する証明書を持参せしめよ。



この様な経緯のもと、米軍により昭和22(1947)年2月10日、ヘイデン琉球列島司令長官名で米国軍政府特別布告第十三号(いわゆる強制収容法)が出され、さらに

奄美大島に対しては同月14日付で、知事あての指令を内容とした北部南西諸島軍政命令第5号がラブリー軍政官名で出された。昭和18(1943)年に、アメリカでプロミンの有効性が判明し、昭和22(1947)年には、日本本土でもプロミンによる治療が開始されているが、その様な頃、本土の改正らい予防より6年も早く⁴、奄美では米軍の命令によるハンセン病患者の収容が強力に進められた。

強制収容法の施行により、当園の入所者的人数は一挙に165名増加し、入院定床100床をはるかに上回った(昭和22(1947)年、年度末入所者178名)。寮舎の増築が緊急に必要となつたが、当時の臨時北部南西諸島政庁の貧弱な財政では食糧の確保さえ満足に行えない状態であった⁵。

一方、分離された本土療養所の奄美・沖縄出身者の多くは故郷への引き揚げを希望しており、連合軍最高司令官マッカーサーの許可を得て、奄美・沖縄出身者の送還が実現した。こうして、昭和23(1948)年9月20日沖縄の愛楽園を経由して、107名の患者が和光園へ収容され、入所者は360名を超えた⁶。



米軍政時代周辺に張りめぐらされた有刺鉄線の残影

福祉係(学芸員) 岩辺 好夫

1 “光仰ぐ日あるべし 南島のハンセン病療養所の五〇年”, 1993年8月10日発行, P 76

2 同上P 77, 78

3 “一希望ある明日へ向けて—知ってほしい、ハンセン病のこと。” 公益財団法人 日本財団 ハンセン病資料館運営チーム, 2017年12月1日発行

4 昭和28(1953)年8月15日、本土において、法律第214号、らい予防法公布、施行

5 光仰ぐ日あるべし 南島のハンセン病療養所の五〇年, 1993年8月10日発行, P 80

6 同上P 83, 183

手作りパーテーション設置

コロナ禍の中、和光園でも職員全員が日々感染対策に努力していると思います。休憩食事時間中に沈黙を守っている女性陣から、「窓は空いていても息が詰まる感じ…。少しは、気兼ねなくおしゃべりできるといいのにね。」とのつぶやきが耳に入ってきた。物づくりを長年手がけてきた私は、テレビで見るアクリル板作りを申し出てみた。今のご時世、アクリル板は高価で手に入りにくいが、代わりのビニールシートに手持ちの杉材を組み合わせ、我ながらなかなかの出来栄えのパーテーションに仕上がった。女性事務員からは「いい仕事ですね。」と賞賛を受け、それを見た他部署からも注文が殺到している。みなさんに喜ばれて大満足ではあるが、まだまだ忙しい日々が続きそうである。



ボイラー技師長 直田 政司

令和2年度 診療統計

	外来診療				特記		入院診療			
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均(人)	診療実日数(日)	紫外線療法(件)	手術/生検(件)	入院(人)	退院(人)	延患者数(人)
12月	126	305	431	35.9	12	68	0	0	0	0
1月	94	262	356	32.4	11	52	11	0	0	0

入院加療を必要とする重症患者なし。

待合室の密を避けるため、予約数を調整しているため、昨年度より患者数が減少している。

人事異動

(令和2年11月1日～令和3年1月31日)

R 2. 12. 31	神寄 祐一	給食係長	辞職
	清瀬 はるみ	看護師	辞職
	溜 絹代	看護助手	辞職

和光園日誌

(令和2年11月1日～令和3年1月31日)

R 2. 11. 12	合同慰靈祭
11. 17	治療棟秋踊り
11. 19	病棟豊年祭
12. 12	ハンセン病医学オンライン講座
12. 18	ふるさとお楽しみ便贈呈式
R 3. 1. 13	永年勤続表彰

編

春の訪れを告げる濃紅色の緋寒桜が、園内の至る所で満開となり、花蜜を求めて沢山のメジロ等が賑わいを見せています。記念公園にある緋寒桜は樹齢八十年近くになり、その威容を誇っています。

集

初めての水害訓練。備えあれば憂いなしを銘記。
看護課スタッフによるエネルギーッシュでユーモラスな踊りは、笑いの源泉。

後

免疫力アップ。
幻想的なクリスマスイルミネーションは、聖夜へといざなう。星々も讃美。

記

和光園の歴史探訪は、社会の木鐸となる。
長引くコロナ禍に辟易しそうですが、日々創意工夫しリスクを避けながら、

賢明な生活を送りたいものです。結いの心を大切に。

編集委員 永田 幸二郎